

# 第32回 軽井沢町総合文化展

みなさんの思いがこもった力作の出品をお待ちしています！  
開催期間中は添え釜もあります（無料）。

出品者  
募集!

- 開催日時 11月3日(木・祝)から6日(日)まで  
9時から17時まで
- ところ 中央公民館・老人福祉センター



**出品資格** 町内在住者および在勤者  
**応募方法** 10月14日(金)までに中央公民館・老人福祉センター備え付けの用紙で申し込んでください。  
 ※出品点数は1種目につき2点以内です。(ひとり何種目でも出品できます)  
**注意事項** 搬入・搬出は出品者が責任をもって行ってください。

## 添え釜 (抹茶の接待)

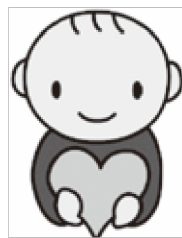
中央公民館活動グループ等がふるまいます

と き 11月3日(木・祝)から6日(日)まで 10時から14時まで

【申し込み・問い合わせ】

☎45-8446 中央公民館

## 意味を考えてみる



スクールサポーター  
(臨床心理士)  
小林 真理

「じじらぶ」  
〜こころのコーポレーション〜

私たちの人生では、自分のことであれ、自分以外の身近な人のことであれ、様々な予期しない出来事が起こります。時に頑張っても望んだような結果にならないこともあります。それでも生きていく限り、私たちはひとつひとつ、出来事に対応して、それを積み重ねていくことしかできないのです。今回はそういった出来事の意味について考えてみます。

誰もが避けられない出来事の一つに「死」があります。経験をすることができない出来事でもあるので、私たちは「死」について意味を考えるしかできません。その考え方の一つとして、「死」という限りを通して、「人生は1回きり」「自分と同じ人間は一人としていない」ということが言えるのだと思います。一人ひとりに「死」という

限りがあって、一人ひとりが違って独自性のある存在だからこそ、みんなが生きていることに意味がある、と言えるのではないのでしょうか。機械化が進み、効率や生産性がばかりが求められると、独自性よりもみんな同じように動けることが求められたり、機械と同じ様に代用できる方が扱いやすいと錯覚されがちです。

そのために人間が本来持っている「限りある独自性」が見えにくくなってしまいます。もし、「機械と同じ様に、人間も代わりがきくようになってしまったら」と考えると、私たちは自分自身の生きの意味さえも揺らいでしまうのではないのでしょうか。

誰もが避けられない出来事として「死」をあげましたが、他にも老いや衰え、病气や事故など、私たちには避けられない苦悩がたくさんあります。しかし、苦悩についてもその意味を考えてみることで、新しい視点を得ることができるとも思いません。つまり人生で起こる様々な出来事について、私たちは対応していく「責任」がある、という考え方はあります。

この「責任」という言葉を英語に直すと「responsibility (レスポンシビリティ)」とな

ります。この単語はれっきとした一つの単語なのですが、これを造語的に「response (レスポンス)」と「ability (アビリティ)」という二つの単語に分けてみます。すると、response (レスポンス) Ⅱ 対応・対応する、ability (アビリティ) Ⅱ できること・生まれつきのまたは努力して得た能力、という意味になります。

様々な出来事に対して苦悩しながらも対応する「責任」がある、と考えると、私たちに起こることは「対応できること」「対応するための努力ができること」と捉えることができるのです。どんなに苦しく、受け入れ難いことであっても、私たちがちゃんと「対応することができると考えられるのです」。

「私」や「あなた」の代わりは誰もいないからこそ、一人ひとりが苦悩しながら、限りある時間を生きているのです。だからこそ、一人ひとりの違いや人間性が輝いていくのだと思います。そして私たちには「責任Ⅱ responsibility」が備わっています。ひとつの視点だけではなく、様々な意味を考えてみることで、出来事に対応する幅が広がっていくといいですね。